

平成28年度
事業報告書

社会福祉法人 ハッピーネット



平成28年度 事業報告書 目次

1. 法人理念・基本方針	1 頁
2. 法人組織図	2 頁
3. 各事業計画	
1 法人本部	
1 事務局(経理、人事、総務)	3 頁
2 経営企画室・コンプライアンス委員会	4 頁
2 第一事業部	
1 特別養護老人ホーム 中野林ゆめの園	5 頁
2 特別養護老人ホーム 中野林ゆめの園 ショートステイ事業	5 頁
3 中野林ゆめの園 デイサービスセンター	6 頁
4 多機能型事業所 大宮ゆめの園	7 頁
5 大宮ゆめの園 デイサービスセンター (日中一時支援事業)	8 頁
6 大宮ゆめの園 放課後等デイサービス	8 頁
7 大宮ゆめの園 児童発達支援事業	8 頁
8 さいたま市西区障害者生活支援センター ゆめの園	9 頁
9 多機能型事業所 鶴ヶ島ゆめの園	10 頁
10 第二鶴ヶ島ゆめの園 (日中一時支援事業)	11 頁
11 鶴ヶ島ゆめの園 ヘルパーステーション	12 頁
12 川越ゆめの園 障害者相談支援センター	13 頁
13 川越ゆめの園 放課後等デイサービス	14 頁
14 川越ゆめの園 児童発達支援事業	14 頁
15 第二川越ゆめの園 放課後等デイサービス	15 頁
3 第二事業部	
1 中野林ゆめの園 ヘルパーステーション (高齢)	16 頁
2 中野林ゆめの園 ヘルパーステーション (障害)	16 頁
3 中野林ゆめの園 在宅介護支援センター	17 頁
4 中野林ゆめの園 在宅介護支援センター (居宅介護支援事業)	18 頁
5 ゆめの園 りふれ宮原	19 頁
6 ゆめの園 りふれ宮原 (生きデイ事業)	19 頁
7 ゆめの園 りふれ宮原 (日中一時支援事業)	19 頁
8 宮原ゆめの園 ヘルパーステーション (高齢)	20 頁
9 宮原ゆめの園 ヘルパーステーション (障害)	20 頁
10 宮原ゆめの園 生活サポート事業	20 頁
11 さいたま市北区西部圏域地域包括支援センター ゆめの園	21 頁
12 ゆめの園 りふれ浦和	22 頁
13 りふれ浦和 ヘルパーステーション (高齢)	23 頁
14 りふれ浦和 ヘルパーステーション (障害)	23 頁
15 りふれ浦和 居宅介護支援センター	24 頁
16 多機能型事業所 浦和ゆめの園	25 頁
17 さいたま市障害就労者向け余暇活動支援講座	26 頁
18 ゆめの園 りふれ奈良	27 頁
19 宮原ゆめの園 居宅介護支援センター	28 頁
20 ゆめの園 いろは本郷放課後等デイサービス	29 頁
21 ゆめの園 春日町ヘルパーステーション (高齢)	30 頁
22 ゆめの園 春日町ヘルパーステーション (障害)	30 頁
23 練馬区生きがいデイサービス事業	30 頁
24 春日町ゆめの園 居宅介護支援センター	31 頁
25 春日びより 放課後等デイサービス	32 頁
26 春日町ゆめの園 障害者相談支援センター	33 頁
27 春日倶楽部	34 頁
28 春日倶楽部 (日中一時支援)	34 頁
29 前野町ゆめの園 ヘルパーステーション (高齢)	35 頁
30 前野町ゆめの園 ヘルパーステーション (障害)	35 頁
31 志村ゆめの園 居宅介護支援センター	36 頁
32 志村ゆめの園 障害者相談支援センター	37 頁
33 板橋ゆめの園 はすねっこ	38 頁
34 板橋ゆめの園 あおば(日中一時支援)	39 頁
35 asumoねりま デイサービスセンター	40 頁
36 特別養護老人ホーム 若葉ゆめの園	41 頁
37 特別養護老人ホーム 若葉ゆめの園 ショートステイ事業	41 頁
38 若葉ゆめの園 デイサービスセンター	42 頁
39 若葉ゆめの園 認知症デイサービスセンター	42 頁
40 若葉ゆめの園 多機能型事業所	43 頁
41 若葉ゆめの園 事業所内保育所	44 頁

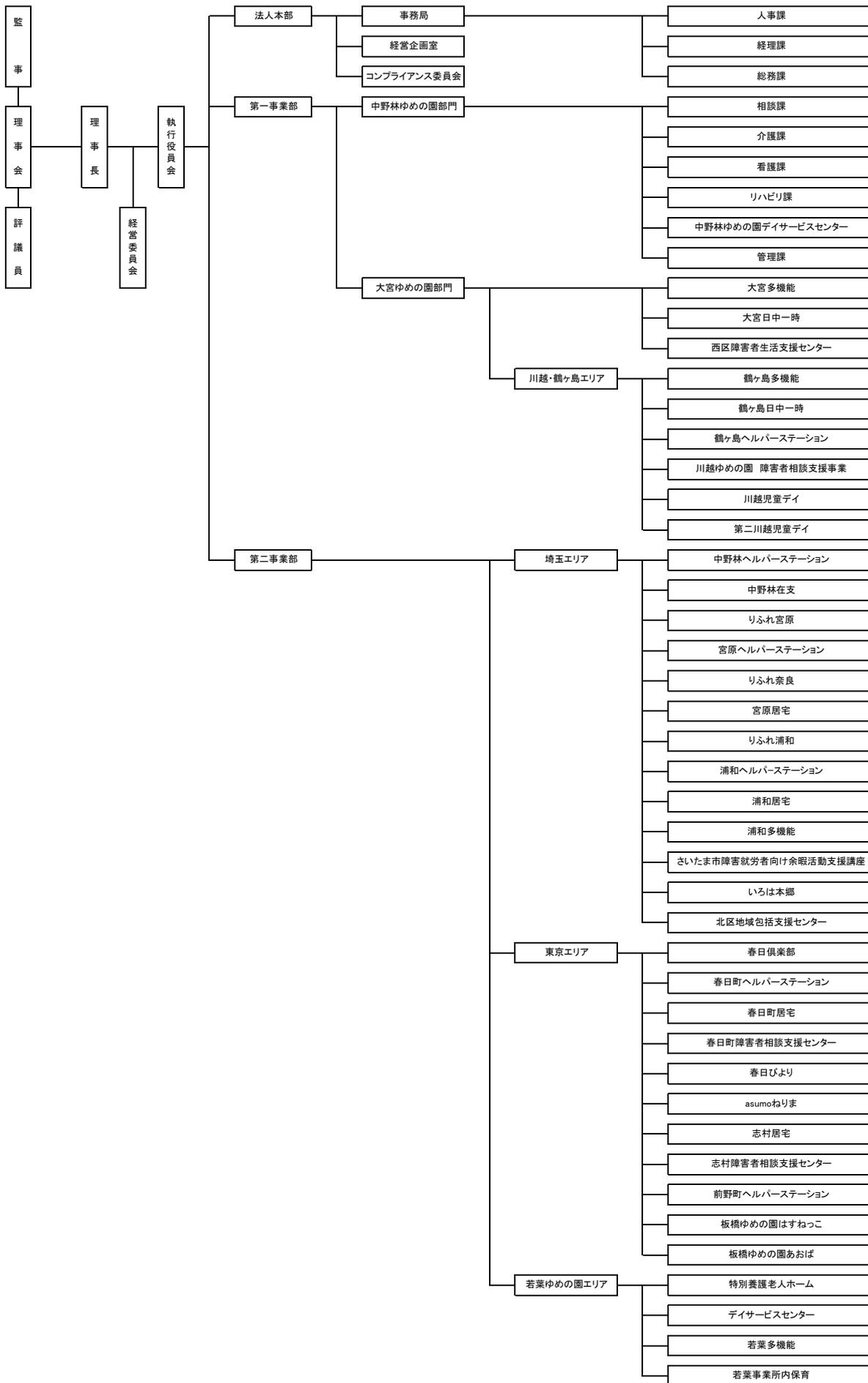
事業報告書

社会福祉法人ハッピーネットは以下に定める法人理念・基本方針のもと、社会福祉事業の主たる担い手としての自覚を強く持ち、全ての役職員が一丸となって、福祉サービスの質の向上と地域福祉の推進に努めます。

法人理念・基本方針

1. 社会制度や地域社会の変動、住民生活と意識の変化、社会福祉ニーズに敏感に反応し、それに対応できる柔軟性を発揮し、地域に溶け込んだ運営を目指す。
2. 施設の専門性をもって、他の機能と共同し、地域福祉の発展充実に努めると共に先駆的・開拓的・実験的な事業に積極的に取り組む。
3. 施設利用者の満足度や新たなニーズの実情を個別的・総合的に把握し、全人的な感覚を持った対応で、利用者に対し主体性のある生活保障と人間性豊かな生活環境を提供する。
4. より高度な介護技術獲得のために、職員の資質向上の機会を積極果敢に取り入れると共に職員の待遇改善に努め、高度な介護技術を持つ職員集団を形成する。
5. 明るく楽しい職場環境の中でも、組織、チームワーク、責任と権限を明確に規定し、利用者に対して質の高いサービスを提供できる職場とする。

ハッピーネット組織体制(平成28年度)



事業報告（法人本部）

3-1-1 事務局（経理、人事、総務）



【経理課】

■新会計基準への対応

28年度は新会計基準移行後2期目の年であり、27年度の移行時に比べ混乱等もなく会計処理を行うことができました。また、社会福祉法改正に伴う制度改正への対応については、全国社会福祉協議会や県主催のセミナーに参加して情報収集をしつつ、厚生労働省から通知されたスケジュールや制度改革に関するQ&Aを活用しながら定款(案)を作成し、理事会でのご承認後、県からの定款承認を頂くことが出来ました。

事業拡大への対応については、若葉ゆめの園の開所に関連する処理を行いました。拠点区分の作成に始まり、施設整備にかかった基本財産等資産の振り分け計上・固定資産台帳の作成・資産コードシールの貼り付け等を行いました。

最後に会計処理やサービス区分の効率化ですが、会計ソフトから抽出したデータを最大限に利用し、Excel関数式による分析およびデータ取りまとめを開始しております。

■外部監査の取組

28年度は社会福祉法の改正に伴い、29年度6月からの会計監査人による外部監査の導入に向けた準備を行なって参りました。

複数の公認会計士及び監査法人より会計監査人監査に関する資料や見積りを入手し、9/18の理事会及び評議員会において会計監査人による予備調査実施の承認を頂きました。承認後、法人本部および各事業部による各業務プロセスの確認を行い、下記3回の調査報告を頂いております。

11月 役員インタビュー、法人本部へのヒヤリング等

1/23 第1回予備調査報告

2/10 第2回予備調査報告 第1回報告を踏まえた問題点の抽出、具体的な課題、改善案の提示

3/1 第3回予備調査報告 ガバナンス体制整備について、業務改善プロジェクトの設置

29年度以降は、ガバナンス強化、財務規律強化などについて、公認会計士と業務改善プロジェクトメンバーが中心となり行って参ります。



【総務課】

■法改正への対応

平成28年度は、①社会福祉法改正への対応、②介護育児休業法の改正に伴う規則の変更、③労働安全衛生法（ストレスチェック）の実施、④女性活躍推進法の行動計画策定、について社会保険労務士と連携を取り、また労働局へ確認を行いながら実施いたしました。現行の規程、規則の見直しについては、①年次有給休暇更新日の統一、②資格手当の追加（言語聴覚士）、③夜勤シフトの設定追加、④役付手当から職責手当への変更、を実施いたしました。

職員周知につきましては、タイムリーな全体連絡会議での報告、および各事業所保管の規程集ファイルの差し替えを行うことで、最新情報が確認できるようにいたしました。

平成29年度は、改正労働契約法（通算5年超の有期労働契約の無期転換ルール）、裁判員制度、改正個人情報保護法等への対応を進めてまいります。

■法人職員の意識改善

4つの意識改革を軸に職員啓蒙を行ってまいりました。

①<期日意識>法人内で交わされる書類やデータについて、提出を依頼する場合には期日を設定し、期日前には設定した期日が迫っていることを通知することで、期日を守る意識を向上させました。

②<時間意識>期限設定において、日付だけでなく時間も設定することで、時間に対する意識を向上させ、時間を守るということを意識付けした。

③<目標意識>事業目標・課目標を設定し、行動基準を判断する際には、目標に沿っているかを判断基準として行動することで、目標に沿った行動をすることができました。

④<改善意識>各事業所と事務局で交わされる各申請書Excelの見直しを随時行いました。原本として使用するExcelデータの改善を行うことにより、抜け漏れや誤りの確認が無いデータ交換を行えるようになりました。

■職員研修の充実

平成28年度は法人全体を対象とした職層別研修および年次別研修を実施しました。

職層別研修は、労務管理知識、書類申請の注意点や承認の流れ、部下へのコーチング手法、会計知識など、各職層で必要となる知識の習得を促進することができました。

年次別研修は、3年次研修を行い27名に参加していただきました。各現場での悩みや組織全体から見た個々の役割について、入職時期が近い職員で議論し共有化することで、職場を越えた人間関係を構築することができました。また、離職率低減を狙い、入職から3年目までのモチベーション推移のメカニズムについて学習しました。

平成29年度は職層別研修・年次別研修の対象範囲をともに拡大し、全職員が必ず1度は研修を受ける体制を構築いたします。

■人材採用力の強化

・組織の再構築
 学生の就職活動短期間化へ対応するため、①人事課内での役割分担明確化（新卒採用担当、中途採用担当、事務所担当）、②人事課共有メールアドレスの運用、などにより業務効率化を行いました。結果的に新卒入職者47名を確保する事が出来ました。

・採用チャンネルの整理整頓
 若葉立上げ人員確保および既存施設職員採用強化を目的とし、①web求人、②ランディングページ開設、③駅の看板設置、④バスの車内広告掲載、⑤各所へのポスター掲示、⑥職員紹介制度増額キャンペーン、⑦ポスティング、などありとあらゆる手段を使った。結果、若葉の最低限の人員の確保や各施設も緊急募集の数を減らす事が出来ました。しかし、あらゆる手段を使った為、情報の管理が煩雑になってしまいました。

また、新卒採用ツールとしては、リクナビ、マイナビの併用をしていましたが、費用対効果によりマイナビに集中し運用することで最大限の効果を発揮できました。

平成29年度は、中途採用ツールにおいても費用対効果をしっかりと見極め、整理を行いました。

・HPの活用強化
 新卒採用活動写真の掲載、採用専用ランディングページの開設、などにより法人HPへの流入数の増加を実現しました。また、マイナビ掲載内容を変更し、法人の強みや、入職1年目職員の対談など、学生の気になる内容を全面に押し出すことにより反響を高めることができました。
 ■新卒、中途職員の育成強化

1年次研修を初めて実施し、在職者19名全員に参加していただきました。グループワークにて1年間の成果と現状の課題を同期全員で共有し、簡単なゲームを通じて仕事を全体像を捉える意識付けを行いました。また、懇親会も行うことで、同期同士の横のつながり意識を高める事が出来ました。

中途職員導入研修については、毎月実施することで新入職者に対して速やかに法人の考え方やルールなどの理解を深めさせることができました（105名参加）。

3-1-2 経営企画室・コンプライアンス委員会

法人全体のVPN網を構築し、ネットワーク環境のセキュリティーレベルを向上させることができました。また、VPN上にファイルサーバーを導入することで、外出先事業所からのデータアクセスや、データ自動バックアップを実施することで、業務効率性を向上させるハード面での準備が整いました。

平成29年度は、ファイルサーバーの実稼働や、申請書ワークフローの導入等でさらなる業務効率化を進めていきます。

① 監査への対応

予定通り内部監査、模擬監査を実施することができました。また実地指導に立ち会うことで情報収集及び法人内への情報フィードバックを行うことができました。

内部監査 5/17鶴ヶ島、asumoねりま、5/18中野林

模擬監査 9/23大宮多機能

実地指導 大宮デイサービス、大宮多機能、川越ゆめの園、第二川越ゆめの園
 鶴ヶ島多機能、第二鶴ヶ島日中一時、鶴ヶ島ヘルパーステーション
 浦和ヘルパーステーション、浦和多機能、いろは本郷

② コンプライアンス意識の啓蒙

昨年に引き続き、外部の情報提供会社を用いて毎月1回、コンプライアンス便りおよびメールマガジンの配信を行い、職員のコンプライアンス意識の啓蒙をおこないました。

③ コンプライアンスに関する研修の実施

所属長研修（総務課主催）との役割分担を行い、委員会では研修を2回実施しました。1回目（9/20）は県社協監査研修内容について共有を行いました。2回目（2/21）は事業種別に分かれ、各事業所での自主点検表の結果についてグループディスカッションを行いました。

グループディスカッション形式では同業種での情報共有効果もみられたため、今後の研修でも取り入れてまいります。

④ 職場環境の改善

改善の基礎資料となりうる状況報告書、インシデントレポート、苦情要望書について、作成基準があいまい、もしくは統一されていないため、各事業部での提出数にばらつきがあることが判りました。また、情報共有についても法人全体でなされていない部分があるため、同様の事故が再発する可能性があることが判りました。これらの状況および改善案について法人に提言を行いました。

各事業報告(第一事業部)

3-2-1 特別養護老人ホーム中野林ゆめの園

3-2-2 特別養護老人ホーム中野林ゆめの園 ショートステイ事業

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ人数) ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
特養	34,717名	34,303名	101.2%
ショートステイ	8,581名	8,753名	98.0%
特養・ショート合算	43,298名	43,056名	100.6%

② サービスの質の向上 (今年度の取り組み)

区分	運営実績	取り組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	書類の観覧・押印の実施	インシデントの観覧を行い、理解を深めた。	来年度は、会議議事録の観覧も行う
コンプライアンスの遵守	内部監査(春)と模擬監査・自主点検(秋)を実施。	予定通りに取り組む。	予定通りに行えた。
人材定着と育成	個別面談の実施	適宜、面談を行った。	年間計画を作成し、計画的に実施する。

(2) 重点目標に対する取り組み結果(実績等)

◇ 看取り加算の取得

所属長が毎月話し合いを重ね、看取り指針の見直し、加算取得に必要な書類の整備等を行い、平成28年度中に加算取得に必要な要件を揃えることが出来た。

◇ 日常生活継続支援加算の取得

加算取得の要件の1つである『算定日の属する月の前6月間又は前12月間における新規入所者の総数のうち、日常生活に支障を来すおそれのある症状又は行動が認められることから介護を必要とする認知症である者の占める割合が100分の65以上であること』は揃ったが、もう1つの要件である『介護福祉士の数が常勤換算方法で、入所者の数が6又はその端数を増すごとに1以上であること』を職員の退職・異動により平成28年12月より満たすことが出来なくなりました。平成29年4月より介護福祉士の数が揃ったので、この状態が3ヶ月続けば、加算の取得を検討していく予定。

◇ 口腔ケアの取り組み強化

口腔ケア系の設立により研修、6カ月に1回のアセスメント等の実施等これまで以上に職員が意識を持ち口腔ケアが行えた。

また、言語聴覚士の意見を交えた口腔体操や食事形態の増加等、器質的、機能的口腔ケアの両方の観点から実施を行えた。

しかし、目標人数である誤嚥性肺炎での入院が10名を超えてしまったため、今後も継続して取り組みが必要である。

◇ 居室環境の改善

委託の浦和、環境チームと協力し居室環境の整備に努めた。

評価のしづらい部分ではあるが見学者や外部の人から施設内が綺麗と評判あり。

また、マットレスの交換も全て行えた。

◇ ショートステイの利便性の向上

● ショートステイの送迎時間の見直し

利用者家族のニーズや生活形態の変化により、ゆめの園開所以来の通例となっている午前入所・午後退所の送迎時間ではニーズに対応出来ず、新規利用者の獲得に至らないケースが出てきていた。

送迎は原則、午前入所・午後退所とし、ご家族の都合に合わせて日曜送迎を行う等、

日勤者の出勤時間である8:30~17:30の範囲内では、ご家族の都合に合わせて送迎を行うことが出来た。

● ショートステイ 土日の入浴の実施

土日の入浴は必要に応じて行えた。体制を整え今後も継続を行っていく。

3-2-3 中野林ゆめの園 デイサービスセンター

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数） ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
通所介護	12,807名	12,376名	103.5%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	書類観覧・押印を都度実施	続行	押印の徹底
コンプライアンスの遵守	春・秋に実施済	続行	法令制度の理解
人材定着と育成	適宜面談を実施。将来のビジョンを確認し	半年に1回実施で続行	予定を立てた個別面談の実施

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績等）

◇ 地域連携の強化

地域住民を対象としたポールウォーキング研修を開催した。
理学療法士のサロン会への継続参加できており、
ウォーキング研修を継続的に開催するなど、地域連携の強化を図る。

◇ 職員のスキルアップ

常勤職員を対象として、外部研修への参加機会を設けた。
外部研修での習得知識を、全職員対象の内部研修にて周知を図った。

◇ 新総合事業への早期着手

H29年4月より、介護予防通所介護サービス（現行相当・総合事業みなし指定）
に移行した。

◇ 不要不急の支出の見直し

職員全員で経費削減の意識を高めることにより、不要不急の支出の見直しに努めた。

3-2-4 多機能型事業所 大宮ゆめの園

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数）※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
就労移行支援事業	1,832名	1,186名	154.5%
就労継続支援B型事業	3,634名	4,142名	87.7%
生活介護事業	15,446名	15,156名	101.9%
合計	20,912名	20,484名	102.1%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	職員閲覧用ファイルにファイリングや掲示板にて周知を行う。	職員へ内容確認ごとに押印を促す。	書類が掲示・ファイリングされていなかったり、全職員からの押印がない時があった。
コンプライアンスの遵守	8月に自主点検を実施。	自主点検をもとに9月に模擬監査を行い、12月に実地指導が入る。	実地指導にて受けた指導内容をもとに各書類等の見直しを行った。
人材定着と育成	職員全体の3分の1の面談を実施。	上半期に実施したが、下半期に実施する事が出来なかった。	全職員に面談を行う事ができなかったため、各月予定を決めて進めていく。

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

◇労働環境の改善

- ・毎週水曜日を『ノー残業デイ』とし、終礼後に退勤している。
- ・有給については、常勤職員が平均で10日間消化。

◇職員の支援スキルの向上

- ・常勤職員は、全員が外部研修に参加。部署内で研修報告会を実施し、研修にて学んだ事を発表した。
- ・12月に外部講師を招いて「自閉症体験＋自閉症について」研修を実施。

◇資格取得の促進

- ・常勤職員2名が「障がい者スポーツ指導員」の研修を受講し取得している。
- ・社会福祉士は1名、介護福祉士は1名が資格を取得。

◇利用者の営業の促進

- ・春夏号、秋冬号、特別号として特別広報誌を作成し、利用者営業時に配布。
- ・7月22日～8月19日に作業体験を実施し、高等部1年生～2年生の16名が参加。

◇利用者の就職への促進

- ・「基礎コース」と「実践コース」に分かれ、「基礎コース」は挨拶や協調性を中心に支援し、「実践コース」は就職に向け、企業を想定し、個別で支援した。

- 3-2-5 大宮ゆめの園 デイサービスセンター (日中一時支援事業)
 3-2-6 大宮ゆめの園 放課後等デイサービス
 3-2-7 大宮ゆめの園 児童発達支援事業

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付)

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
日中一時	966名	1,112名	86.9%
放課後等デイサービス 児童発達支援事業・合算	6,825名	6,836名	99.8%
合計	7,791名	7,948名	98.0%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	連絡帳や閲覧用ファイルを活用して職員へ周知を行う。	職員に対して回覧を促しているが、押印まで徹底が出来ていなかった。	インシデントレポートの提出数が少なかった(記録自体は別書式でとっていた)
コンプライアンスの遵守	12月実地指導の前に自主点検、模擬監査を行う。	12月に実地指導が入っている。	監査の結果を受けて指摘事項の訂正を行っている。
人材定着と育成	常勤職員との管理者面談については、実施できなかった。	事業の開始間もないということもあり、年間の予定として組めていなかった	H29年度では計画的に半期ごとに予定を立てて取り組む。

(2) 重点目標に対する取り組み結果 (実績等)

◇労働環境の改善

- ・事業開始間もない4月に関してはノー残業デイが実施できなかったが、落ち着いた後は毎週水曜日をノー残業デイに設定し実施できている。
- ・有休に関しては取得の促しをしているが、自主的な取得は進まなかった。取得しやすい環境などこちらで配慮をする必要がある。

◇職員の支援スキルの向上

- ・中途入職職員1名を除く他の常勤職員に関しては外部研修の受講を達成できた。
- ・「自閉症体験+自閉症について」講師を招いて12月に講演を行っている。

◇特別支援学校との連携の強化

- ・3か月に1度としていたが、実際は7月・2月の2回の実施した。特別支援学校のコーディネーターの先生を訪問し、利用者の様子や支援方法について情報共有を行った。

◇ケース検討会議の実施

- ・2か月に1度のペースで困難ケースの方を中心に個別支援計画やインシデントレポートをもとに行っている。

◇サービスの質の向上の為の活動

- ・運動会、外出活動、クリスマス会と大型行事を実施しているが、今年度はクリスマス会を大宮ゆめの園デイサービスセンター単体として実施を行った。
- ・放課後デイの毎月の誕生日会では、写真入り缶バッチや誕生日カードを作成しプレゼントすることで形に残る誕生日会として実施した。

3-2-8 さいたま市西区障害者生活支援センター ゆめの園

(1) 目標に対する結果

① 実績件数

※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
相談件数(基本相談)	5,092件	4,000件	127.3%
特定相談支援(新規計画)	300件	248件	121.0%
特定相談支援(モニタリング)	223件	158件	141.1%
合計	5,615件	4,406件	127.4%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	回覧板を設置し、全職員が回覧できるように配慮した	議事録や通知等を閲覧できるようにした	全員が見ているのか確認できないときがあったため、会議等でも共有していく
コンプライアンスの遵守	自主点検表の記入と模擬監査の実施	上半期に自主点検表を記入しそれをもとに下半期に模擬監査を行った	実地調査はなかったが今後行われることが予想されるため経験を活かしていく
人材定着と育成	研修への参加	外部研修の参加と内部研修を実施し人材育成に努めた	個別面談を行なう予定だったが実施できなかったため次年度実施する

(2) 重点目標に対する取り組み結果(実績等)

◇労働環境の改善

- ・週に一度の「ノー残業デー」を水曜日に設定し、実施。
職員全体の残業の低減をすることができた。
- ・正職員4名で年間合計26日取得することができた。
- ・正職員のシフトに週1度ペースでの遅番制を導入し、それに合わせて業務を行い「ノー残業デー」と合わせて職員の残業の低減をすることができた。

◇相談しやすいセンターづくり

- ・音声読み上げデータ付き契約書・重要事項説明書、ルビ付きの契約書・重要事項説明書を作成し、各障害を持った人の相談に対応できるようにした。
- ・来客用入口にチャイムと呼び鈴を設置し、来客時対応できるように配慮した
来客用駐車場をセンター近くに設定し、肢体に障害のある人に配慮した

◇地域に必要とされるセンターづくり

- ・前年度のアンケートを参考に「講演会」のテーマを決め、52名の方に参加してもらい好評を得ることができた。
- ・区役所での開催の他にもう1カ所会場を借りて計2回の出張相談会を開催した
新規の方の相談もあり、今後も継続して開催していく。
- ・講演会での講師に当事者本人や家族を講師に依頼し新たなネットワークを形成することができた。
特別支援学校での説明会や研修会に参加することができた。

3-2-9 多機能型事業所 鶴ヶ島ゆめの園

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
就労移行支援事業	530名	307名	172.6%
就労継続B型支援事業	3,784名	4,088名	92.6%
生活介護事業	6,836名	6,671名	102.5%
合計	11,150名	11,066名	100.8%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	「会議議事録」「打合せ議事録」の作成。	書類作成し、掲示場所を設定し、朝礼、終礼で周知した。	掲示後の内容把握の確認が不足していた。
コンプライアンスの遵守	年1回の自主点検の実施。所属長のマネジメントスキルの向上。	年度初めに県の監査指導実施所属長マネジメント研修受講しております。	県の監査指導により職員の制度理解を深める機会となりました。
人材定着と育成	所属長による個別面談。常勤職員の資格取得の促進。常勤職員年1回以上の外部研修	常勤職員3名サービス管理者研修受講しております。	個別面談年1回常勤退職者0名 常勤職員1名介護福祉士合格しております。

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

◇就労移行支援事業

就労実績として、年間3名達成し、職場定着率も93%となっております。
月一回の企業見学を実施し、ご利用者様の就労意識向上に繋がりました。
就労移行支援連絡会に参加し、職員の知識・技術の向上を図りました。

◇就労継続支援B型事業

平成27年度の継続支援B型の県平均工賃を上回る14,917円で達成しております。
うどん製造担当の職員を2名体制にし、生産数の向上に繋がりました。
地域の販売イベントに年3回参加し、工賃の向上に繋がりました。

◇生活介護事業

アルミ缶回収を通し、回収先を増やし、5か所の地域の店舗の他、筑波大付属坂戸鶴ヶ島清風高校等のご協力を得ております。
音楽会は年2回実施し、ボランティアの方やご家族との交流の機会となりました。
月1回の班別会議は行えない月も発生した為、実施方法等、今後の課題となっております。
新規の日課として、畑作業を開始し、ご利用者様も室内とは違った明るい表情が見られております。今後、栽培野菜の選定を行い、工賃に反映できるよう取り組んでいきます。

3-2-10 第二鶴ヶ島ゆめの園（日中一時支援事業）

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
日中一時支援事業	3,991名	3,381名	118.0%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	議事録等の作成及び回覧の徹底	議事録を作成して回覧が行えるようにファイリングを行う。	回覧漏れがあったためチェックリストの作成が必要。
コンプライアンスの遵守	自主点検表の作成 鶴ヶ島市による実地指導	・自主点検、模擬監査実施。 ・社内研修にて“社内規定”、“労務管理”等に参加をしている。	所属長のスキルに関して、法人内研修以外の部分の外部研修の参加も検討をしていく。
人材定着と育成	サービス管理責任者研修受講 強度行動障害支援者養成研修受講	・個別面談実施できず。 ・常勤職員の資格や外部研修に関しては、行動援護従事者養成研修、埼玉県障害者虐待防止・権利擁護研修、相談支援従事者初任者研修などに参加をしている。	パート職員に対しても、放課後等デイサービスの資格要件の改正（日中一時支援事業には影響はない）やヘルパー兼務の職員も多いなどの背景から、行動援護従事者養成研修を受けて頂くことを検討。

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

◇職員のスキルの向上

知的障害に関する研修、コンプライアンスに関する研修等をサービス前の時間を使い行っている。職員の勤務調整がうまくいかず、全職員に対して実施が出来ていない回もあり、資料等を渡している。

◇収支差額の目標達成に向けた収入増のための取組み

業務の都合などで継続的に訪問をすることができていなかった。各事業所と合わせてチラシ等の配布などは行っている。今後は毎月の郵送で、各事業所ごとにまとめて送っていく。

◇収支差額の目標達成に向けた支出減の取組み

残業に関しては4月は目標値の10h未滿を達成しているが、毎月平均すると15h程度発生している。事務職員へ積極的に仕事を振るなどして事務面での負担を減らすなどを実施している。

◇サービスの質の向上のための取組み

筑波大学付属坂戸高校のボランティア部との交流会を月に1回行い。時期にあった創作活動やレクリエーションを行っている。

隔週で音楽ボランティアに来てもらい、ピアノに合わせて歌を歌うなどの活動を行っている。同じことの繰り返しになっている新しい取組みを検討することが課題となる。

担当者会議等へは業務を調整し可能な限り参加を行うようにし、他事業所と情報の交換を行える機会を設けた。

◇法令遵守・虐待防止の理解を高める取組み

埼玉県障害者虐待防止・権利擁護研修を1名受講しています。

3-2-11 鶴ヶ島ゆめの園 ヘルパーステーション

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ時間 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付)

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
障害居宅	7,181時間	5,520時間	130.1%
移動支援	3,628時間	3,122時間	116.2%
合計	10,809時間	8,642時間	125.1%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	ミーティング 議事録作成	議事録に閲覧者の印鑑を押し職員全員での内容確認を行った	日々の業務内容で情報伝達不足が多々あった
コンプライアンスの遵守	自主点検表の作成 鶴ヶ島市による実地指導	自主点検表にて状況把握。所属長マネジメント研修受講	実地指導での指摘事項はなかったが、自主点検表を作成した際に個別支援計画書の更新が滞っている事が確認された
人材定着と育成	常勤職員の資格取得	介護福祉士1名 行動援護従事者養成研修2名 同行援護従事者研修1名 サービス管理責任者受講3名	所属長による個別面談は行えなかった為、ミーティングを月1回開催した

(2) 重点目標に対する取組み結果 (実績等)

◇労働環境改善の為の取組み

- ・常勤職員2名増員し、残業時間は平均して月10～15時間に削減された。
- ・月により20時間発生する事もあり、今後の課題として残っている。

◇法令遵守・虐待防止の理解を高める取組み

- ・埼玉県障害者虐待防止研修1名
- ・毎月のヘルパ-ミーティングにて、報道された虐待事件をテーマにしディスカッションを行った。
- ・虐待チェックシートの利用した点検も登録ヘルパ-含め全員行った。

◇収入増の為の取組み

- ・毎月の近隣事業所への営業を兼ねた訪問は行えなかったが、ほぼ毎月鶴ヶ島市坂戸市・毛呂山町・日高市の相談支援センターより新規の問い合わせを頂き、川越市・地域に根付いた事業運営が行えた。
- ・特定事業所加算を取得し収入金額の増加につながった。

◇サービスの質の向上の為の取組み

- ・毎月のヘルパ-ミーティングを実施し、登録ヘルパ-全員参加が達成できた。
- ・登録ヘルパ-との面接は実施できなかったが、家庭の事情での離職1名を除き登録ヘルパ-の離職はなかった。

3-2-12 川越ゆめの園 障害者相談支援事業

(1) 目標に対する結果

① 実績件数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
相談件数(基本相談)	3,320件	1,845件	180%
特定相談支援(新規)	87件	70件	124%
特定相談支援(モニタリング)	77件	68件	113%
障害児相談支援(新規計画)	31件	35件	89%
障害児相談支援(モニタリング)	18件	24件	75%
合計	3,533件	2,042件	173%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	毎朝ミーティング実施	毎朝のミーティングにてエリア会議や業務指示について情報共有している	情報伝達が図れている
コンプライアンスの遵守	法令遵守研修実施 書類チェック表作成	職員入職時にコンプライアンス研修を実施。 2月自主点検票もとに書類整備状況チェック実施	議事録やアセスメント表等の書類がそろっていない現状がある。
人材定着と育成	月1回内部研修 専門研修参加	4月虐待防止研修実施 2月専門研修障害児参加 12月虐待防止研修受講	相談支援専門員資格受講者を増やし、委託相談支援に向けて体制強化する。

(2) 重点目標に対する取り組み結果(実績等)

◇労働環境改善の為の取り組み

- ・残業削減をめざし業務の効率化を図っており、月5時間以上の残業発生していない。
- ・ノー残業デーを設定しており、職員の働き方の意識改善につながった。

◇収入の安定化

- ・積極的に新規利用者との契約をすすめ、121件稼働を達成している。
モニタリングも利用者の状況にあわせて、市町村と協議しながらモニタリング期間の設定をして適正な収入がとれるよう調整することができた。
- ・相談支援専門員が入職した事により、人件費支出が増えているが、稼働率が向上した。
- ・委託相談支援の公募を目指す為、相談支援体制強化を図った。

◇連携力の強化

- ・ケースを通じて訪問や支援会議を適宜開催し特別支援学校や医療機関との連携を強めてきて、基本相談件数が倍増している。
- ・川越市障害者相談支援センターからの新規依頼は順調に伸びており、月1回の計画相談会議においてはケース検討の発表等の役割を果たしている。

◇相談支援スキルの向上

- ・月1回川越市計画相談会議に出席してケース検討に参加して、相談支援のスキル向上、地域資源の情報収集等を図った。
- ・相談支援専門員研修(児童)、埼玉県虐待防止研修受講済。

3-2-13 川越ゆめの園 放課後等デイサービス

3-2-14 川越ゆめの園 児童発達支援事業

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数）※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
放課後等デイサービス 児童発達支援事業	3,827名	3,081名	124.2%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	終礼議事録、部署別会議議事録の作成	朝礼ミーティング、部署別会議等で周知	ヒヤリハットの情報周知が甘く対応が徹底できていないことがあるため別の方法を検討する必要がある。
コンプライアンスの遵守	埼玉県から実地指導有	注意事項にある契約書、重要事項説明書は見直し済み	所属長のマネジメントスキル向上のため、外部研修・セミナーに積極的に参加する。
人材定着と育成	サービス管理責任者研修受講 強度行動障害支援者養成研修受講	河内：川越市主催虐待研修参加 板坂：サービス管理責任者研修 中島：強度行動障害支援者養成研修	所属長による個別面談が時間を取って開催することができなかったため、支援のない午前中を利用して開催し、職員からの話に耳を傾ける。

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

◇労働環境改善の為の取り組み

ノー残業デイの設定により、職員の残業に対する意識改善に繋がった。

◇資格取得の促進の為の取り組み

板坂：サービス管理責任者研修受講、中島：強度行動障害支援者養成研修、実務者研修を受講しそれぞれ資格を取得している。

◇収支差額の目標達成に向けた収入増のための取り組み

フットサル活動にて外部の大会に2度参加するなど利用者獲得に繋がっている。見学前に各学校や関係機関にチラシ・パンフレットを配布することで営業活動を行う。

施設見学会を行い、参加した3名が新規利用に繋がっている。

3-2-15 第二川越ゆめの園 放課後等デイサービス

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
放課後等デイサービス	3,140名	1,520名	206.6%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
情報伝達の徹底	終礼議事録、部署別会議議事録の作成	各ファイルを作成し、参加出来ていない職員に周知を行う。	職員がファイルを確認したかどうか不明な部分があるため、印BOXをつけるなど整備が必要
コンプライアンスの遵守	埼玉県からの実地指導あり	注意事項にある契約書、重要事項説明書は見直し済み	所属長のマネジメントスキル向上が不十分であった為、外部研修やセミナーに積極的に参加し能力の向上に努める。
人材定着と育成	埼玉県障害者虐待防止権利擁護研修 相談支援従事者初任者研修 強度行動障害支援者養成研修	木村:埼玉県障害者虐待防止権利擁護研修 中村:相談支援従事者初任者研修 直井:強度行動障害支援者養成研修	時間を設けての所属長による個別面談を行事が出来なかった。面談の予定日を作成し、計画的に行い人材定着と育成に努める。

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

◇労働環境改善の為の取組み

- ・相談室の整理整頓を日頃から行い、職員の休憩室としての環境を整える事が出来た。
- ・週一回のノー残業デイを設定する事で、職員の残業を減らす意識を付ける事が出来た。

◇資格取得の促進の為の取組み

- ・職員中村がサービス管理責任者研修からの選考に漏れてしまったが相談支援従事者初任者研修を受講し資格を収得している。

◇法令遵守・虐待防止の為の取組み

- ・職員木村が埼玉県障害者虐待防止・権利擁護研修を受講している。

◇収支差額の目標達成に向けた収入増のための取組み

- ・4月・5月・6月と見学会を各月2回実施をし、6月以降利用を大幅に増やす事が出来た。
- ・相談支援センター・特別支援学校・支援学級に広報誌や見学会の案内等のチラシを配布し活動の周知を行っている。広報誌については毎月作成をしている。
- ・屋外遊具を設置し他事業所との差別化を図る事が出来た。また、年間31件の新規契約を結ぶ事が出来、月2名以上の利用者を獲得する事が出来た。

各事業報告(第二事業部)

3-3-1 中野林ゆめの園 ヘルパーステーション(高齢)
 3-3-2 中野林ゆめの園 ヘルパーステーション(障害)

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ時間 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付)

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
高齢事業	15,397時間	8,640時間	178.2%
障害事業	9,086時間	8,640時間	105.2%
合計	24,483時間	17,280時間	141.7%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
初任研修	5回	入職した職員に対し、実施している。	サービス時の留意事項など、内容をもっと工夫する必要あり
常勤現任研修	月に3～4回	スケジュールに組み込み、新規利用者の情報共有、現場の課題などを共有し課題	サービスと現認研修が重なることで参加者人数にばらつきがある為、開催時の工夫が必要
全体現任研修	年に10回程度	ヘルパーミーティングに質の向上、リスクマネジメント、情報共有などを実施	サービスの質の向上につながる研修内容を再度検討し、研修時間を効果的に活用する必要がある。
マナー研修	5回	入職時の新入職員、サービス提供を行う職員に対し都度実施している	利用者別の対応方法、ヘルパーのマナー・接遇方法の改善を行い、質を向上させる必要あり
現場研修	月に3～4回	現場でのサービス実施時にサービス提供責任者が現場指導にあたっている	サービス提供責任者が現場に出る回数が増えるなどで、現場研修指導の回数のばらつきがある。
技術研修	月に3～4回	現場でのサービス実施時にサービス提供責任者が指導に当たっている	サービス提供責任者が現場に出る回数が増えるなどで、現場研修指導の回数のばらつきがある。

(2) 重点目標に対する取り組み結果 (実績等)

◇ 労務環境改善の為の取り組み

労務管理研修(所属長研修)に参加し、労務管理スキルの向上を図る事ができた
 有休取得率は43%で、1ヵ月平均4日ずつ取得できている。

事務効率を図る為事務員を採用し、作業効率が上がった。

職員の健康面を考えたNO残業デイ実施により週1回は必ず定時に帰宅できた。

◇ サービスの質向上の為の取り組み

・ ケース会議やミーティングを増やし、現場や事務を交えた情報共有がより多く行えた。

・ 介護福祉士資格取得者は3月終了時点で3割。介護福祉士資格取得を今後も促していく。

・ 同行援護従事者研修へ2名参加している。

3-3-3 中野林ゆめの園 在宅介護支援センター

(1) 目標に対する結果

① 地域事業

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
会食会の参加	年11回	送迎車添乗・会食会の参加	単身者の見守り
介護相談会	年10回	介護相談・周知活動	周知活動の継続
認知症サポーター講座	年4回	認知症を知ろう(劇団西区)	周知活動の継続
民生児童協議会議	年1回	関係機関への周知活動	関係機関との連携継続
介護者サロン	年4回	包括介護者サロンの協力	包括との連携継続

② サービスの質の向上

区分	運営実績	区分	運営実績
地域交流	敬老の日を祝う会	地域交流	加茂川団地祭り
地域交流	西区ふれあいまつり	地域交流	足立神社団地祭り
地域交流	植水地区運動会		

(2) 重点目標に対する取組み結果(実績等)

◇ 地域との取組み

在宅介護等に関する総合的な相談に応じ、各種の支援及び、総合調整を行う。
民生委員と連携を図り、一人暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯などの実態把握
及び継続支援を行う。

3-3-4 中野林ゆめの園 在宅介護支援センター（居宅介護支援事業）

(1) 目標に対する結果

① ケアプラン作成件数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
ケアプラン	1,578件	1,476件	106.9%
認定調査	172件	120件	143.3%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
地域交流	ケアマネ会の参加7回	包括主催の研修に参加	知識向上と情報収集
医療連携	19件	入退院時の連携	医療連携の継続

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績等）

◇ 労務環境改善の為の取り組み

就業時間内に業務を終わらせる。有給休暇取得率20%の目標に対して57%取得

◇ サービスの質の向上の為の取り組み

医療との連携を積極的に行い、予後を予測した丁寧なケアプラン作成を心がける。
研修に参加し、多様な相談に対応できるスキルアップを努める。

- 3-3-5 ゆめの園 りふれ宮原
 3-3-6 ゆめの園 りふれ宮原 (生きデイ事業)
 3-3-7 ゆめの園 りふれ宮原 (日中一時支援事業)

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付)

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
通所介護	9,614名	10,163名	94.6%
生きデイ事業	97名	144名	67.4%
日中一時支援事業	1,356名	1,333名	101.7%
合計	11,067名	11,640名	95.1%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
内部研修	定期的を実施	継続	情報共有する
外部研修	定期的に参加	継続	積極的に参加する
意向(嗜好)調査	定期的を実施	継続	キックバックする

(2) 重点目標に対する取組み結果 (実績等)

◇ 労務環境改善の為の取組み

- ・積極的に労務管理研修を受けることが出来なかった。
- ・有給休暇取得率を20%以上の取得はできた。
- ・事務業務の効率を図るために事業部事務部門を構築できた。
- ・職員の健康管理を考え、月3回のNO残業デイとなってしまった。

◇ サービスの質の向上の為の取組み

- ・意向(嗜好)調査を定期的に行うことが出来なかった。
- ・情報共有のため職員会議を毎月行いサービスの向上を図ることが出来た。
- ・職員のスキルアップのために外部研修・資格取得をあまり出来なかった。
- ・ボランティアの新規開拓を行い、利用者様に楽しみを持ってもらうことが出来た。

3-3-8 宮原ゆめの園ヘルパーステーション (高齢)

3-3-9 宮原ゆめの園ヘルパーステーション (障害)

3-3-10 宮原ゆめの園生活サポート事業

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ時間 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付)

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
高齢事業	6,376時間	5,350時間	119.2%
障害事業	4,880時間	5,680時間	85.9%
合計	11,256時間	11,030時間	102.0%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
初任者研修	1回	新規登録ヘルパー採用時実施	新任職員への研修でフローチャート等を作成し、段階的にどこまで理解できているかを明確にできるようなシステムを作る必要がある。
常勤現任研修	月3-4回実施	週に一度	支援目標や支援方法の共有を行う際、確実に理解できているかを確認するためのシステムを作る必要がある。
全体現任研修	月1回実施	登録職員全員での研修	登録ヘルパーの参加率が80%ほどの為、2部開催を検討。すべての職員が参加できるよう時間とサービスの調整を実施する必要がある。
マナー研修	月1回実施	全体現任研修時、挨拶から靴の置き方など何度も振り返り研修し理解の状況を確認。新任職員等には言葉かけの際の注意点などを学んでいただいている。	介護保険上できないこととお断りする際の言葉の選び方で、ご利用者様に不快な思いをさせてしまうことがあるため、その点について重点を置いて、今後は指導を行う必要がある。
現場研修	月1回実施	実際登録ヘルパーがサービスに入っている際、ご利用者様の許可をとり現場にてサービス状況やご利用者様の状態等を確認し、その場にあった支援を実地にて指導を行う。	サービス提供責任者の現場訪問回数が現状では少なめの為、業務配分で無理をなくしながらも時間を作りつていく必要がある。
技術研修	月1回実施	全体現任研修時実施	登録ヘルパーの技術レベルの差があるため、今後はアンケートを実施し、登録ヘルパーが不安と思っている技術点を指導することで、技術レベルの高い水準での均等化を目指す必要がある。

(2) 重点目標に対する取り組み結果 (実績等)

① 労務環境改善の為の取り組み

- 法人主催の管理者研修への参加を行っております。
- 有休消化率は35%と、目標であった20%を上回る結果となりました。
- 常勤職員の事務負担を軽減すべく事務職員を採用。事務業務の効率化を図っております。
- 週に1度のNO残業デーを実施。職員の健康管理に留意させていただきました。

② サービスの質の向上の為の取り組み

- 週に1回のケース会議、また月に1度の全体ミーティングを実施し、状況の共有技術の共有を行い、全体的なサービスの質の強化に努めております。
- 介護福祉士資格取得者。28年度合格者1名。
- 外部研修へ参加。実務者研修1名 行動援護研修2名参加しております。

3-3-11 さいたま市北区西部圏域地域包括支援センター ゆめの園

(1) 目標に対する結果

① 地域事業 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
介護者のつどい	年24回	定期開催で介護者の支援を行う。	参加者の増加と内容の充実
介護予防健康体操	年12回	地域に出向くことで包括の周知を図っている。	介護予防に関する最新の情報を入手。内容の工夫。
認知症サポーター養成講座	年2回	生協等の企業からの依頼。	認知症についての理解を深められるよう積極的に周知を図っていく。
出張相談会	年2回	イオン2回・七夕祭り・区民祭りに参加。	包括の周知、在支との連携強化。
高齢者疑似体験会	年1回	民生委員対象	ネットワークの強化
出前講座	年6回	介護予防・認知症予防	地域課題の把握
地域サロン会参加	年60回	自治会館6箇所に参加	包括の周知、情報提供
地域支援会議・個別会議	年6回（各3回）	地域の関係者との情報交換を目的に開催	地域ネットワーク構築への取組み

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
地域課題への取り組み	自主運動グループ（公園2箇所）78回、自治会館での体操24回、コープでの体操14回、楽トレ倶楽部6回	新しくコープ2階での自主運動グループを立ち上げた。在支との共催で楽トレ倶楽部を6回実施。	活動の周知と地域課題の把握、介護予防の普及啓発。
ケアマネとの連携	巨峰の会・3包括合同ケアマネ勉強会15回	ケアマネジャーへの個別支援。支援困難事例への支援	ケアマネとの関係づくり
研修参加	行政からの案内研修12回。法人内研修。	研修に参加し、スキルアップを図る。	スキルアップの向上。情報提供を積極的に行っていく。

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績等）

① 地域との取り組み

- ・地域へ出向く活動に積極的に参加する機会が増えた。包括の周知を図り、関係機関との顔の見える関係作りを行った。
- ・高齢者の増加に伴い、地域で支え合いができるネットワークへの取り組みを継続した。
- ・個別ケースの課題分析等を積み重ねながら、地域に共通した課題を明確化できるよう努めた。生活支援コーディネーターを配置し、地域の活動マップを作成した。
- ・認知症サポーター養成講座を年2回開催した。認知症キャラバンメイトに4名受講した。
- ・定期的に介護者のつどいを開催し、介護者支援の充実を図ったり、情報発信に努めた。
- ・地域住民の介護予防の必要性の意識を高めるための取り組みを行政、医療機関、住民代表と共に行った。運動のできる場作りを増やすことができた。
- ・成年後見制度の活用促進のための広報活動や高齢者虐待の早期発見・対応を行った。

② 労働環境改善の為の取り組み

- ・法人内で開催される労働管理研修に参加した。労働管理の重要性を理解することができた。
- ・有給休暇取得率20%の事業所目標は達成した。
- ・事業部事務部門によるサポートで事務業務の効率化を図り、作成書類のミスや負担を減らすことができた。
- ・週1回以上NO残業DAYデイを作り、職員の意識付けを行った。各自NO残業デイを作り、目標を達成することができた。

3-3-12 ゆめの園 りふれ浦和

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
通所介護	10,926名	10,021名	109.0%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
社内研修	13	続行	わかりやすい研修 いい処遇の質を 高めていく
社外（行政）研修	10	続行	必要な研修に 参加し周知行う
意向調査	1	年に1回実施 続行	利用者の満足度・ ニーズを知る

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

① 労務環境改善の為の取組み

- ・ 労務管理研修参加していませんでした
- ・ 54回取得 目標20%に対し61%であった
- ・ 事務職員（派遣）入職するが体調崩し退職。そのまま不在。
- ・ 週1回NO残業デイ行っている

② サービスの質の向上の為の取組み

- ・ 積極的に研修に参加し職員へ周知
- ・ 互いに励まし合い体操参加、レク参加していく事により筋力・歩行状態の維持、改善されている
- ・ 日々のミーティング、申し送りノートにて支援・処遇改善行っている

3-3-13 りふれ浦和 ヘルパーステーション (高齢)

3-3-14 りふれ浦和 ヘルパーステーション (障害)

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ時間 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付)

区分	H28年度実績 (報告)	H28年度目標 (計画)	H28年度達成率
高齢事業	5,088	3,500時間	145%
障害事業	3,449	2,000時間	172%
合計	8,537時間	5,500時間	155%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
初任研修	随時	随時	随時
常勤現任研修	12ヶ月	12ヶ月	毎月は行えず2ヶ月に1回
全体現任研修	12ヶ月	12ヶ月	毎月は行えず2ヶ月に1回
マナー研修	随時	随時	随時
現場研修	随時	随時	随時
技術研修	随時	随時	随時

(2) 重点目標に対する取組み結果 (実績等)

① 労務環境改善の為の取組み

- ・管理者は労務管理に対するますますの意識向上のために所属長研修を受けた
- ・有給休暇取得率20%目標を達成した
- ・事務業務の効率を図るために事業部事務部門を構築するため適宜職員を募集し、配属となった
- ・職員の健康管理を考え、週1回以上、各自NO残業デイを作った。

② サービスの質の向上の為の取組み

- ・常勤非常勤でケース会議・ミーティングを行い訪問先でのサービスの質の向上を図った。
- ・登録ヘルパー1名が介護福祉士資格を取得。
- ・常勤非常勤を問わず内部・外部研修を積極的に受け技術や知識向上を図った。

③ 反省点

- ・常勤研修が2か月に1回のペースしか行えていなかった
- ・全体現任研修も2か月に1回のペースしかできていなかった
今後は積極的に参加するように自負致します

3-3-15 りふれ浦和 居宅介護支援センター

(1) 目標に対する結果

① ケアプラン作成件数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
ケアプラン	1,307件	1,150件	113.7%
認定調査	183件	220件	83.2%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
包括との連携	地域支援会議10回	出来るだけ職員全員で参加	
法人内部研修	4回	意識向上の役立つ	全員の参加が必要
医師会、行政主催勉強会	2回	年数回の参加となる。	医療との連携困難
資格取得		主任ケアマネ取得	主任ケアマネ3人

(2) 重点目標に対する取組み結果 (実績等)

① 労務環境改善の為の取組み

- ・管理者は労務管理に対する管理者内部研修の参加実施。
- ・職員の健康管理を考え、職員1名あたり時間外を月30時間以内を目指し有給消化率78パーセントにて実施した。

② サービスの質の向上の為の取組み

- ・各種研修会に参加した内容を議事録作成のみに終わらせず、週1回の事業内でミーティングの実施1人で考えず週1回のミーティングや問題が起こった時点で検討しサービスの向上を検討している。
- ・圏域内での事例検討会の参加にて自己の向上に努めた。
- ・施設見学に行った際は、施設等見学報告書を作成。また、施設見学だけではなく、地域の実情に合わせた独自の取組み等も幅広く情報発信できるよう努める。

(5回以上)

3-3-16 多機能型事業所 浦和ゆめの園

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
就労移行支援事業	2,411名	1,983名	121.6%
就労継続支援B型事業	3,740名	3,264名	114.6%
生活介護事業	1,200名	981名	122.3%
合計	7,351名	6,228名	118.0%

② サービスの質の向上

区分	運営実績・取組み状況・課題等
就労移行支援事業	6月、8月に年間2ケースの企業就労実績を達成しました。今後の定着支援に重点的に取り組んでいきます。
就労継続支援B型事業	平均工賃実績が21,731円となり、前年度比4,388円の増額となりました。引き続き工賃増額に取り組みます。
生活介護事業	介助における怪我や事故はなかったものの、送迎車における事故を1件起こしてしまいました。送迎時の事故ゼロを目指していきます。

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績等）

① 労務環境改善の為の取り組み

- ・事業所における有給休暇取得率65%を達成しました。
- ・勤務予定表にNO残業デイを設定し、概ね予定通りに退勤することができました。事業所全体としては営業日に対し約42%、職員一人当たり月平均9.3日を定時で退勤し、各自の健康管理やプライベート時間の配慮に取り組みました。

② サービスの質の向上の為の取り組み

- ・地域における特別支援学校等との連携向上の為、学校の長期休みに体験実習の受け入れを行ないました。さいたま市内外8校の高等部から計27名の実習生の受け入れを実施し、大変好評をいただきました。
- ・サービス向上の為、以下の研修を実施、参加しました。

（事業所内研修）

虐待防止研修、個人情報保護取り扱い研修、感染症研修、記録の必要性研修

（外部研修）

就労支援基礎研修、障害者虐待防止・権利擁護研修

3-3-17 さいたま市障害者就労者向け余暇活動支援講座

(1) 目標に対する結果

①地域事業

※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
開催日数	12回	12回	100.0%
参加者数	188名	180名	104.4%

②サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
地域連携	さいたま市総合総合支援センターとの連携を図ってきました。	開催内容の確認や相談を取り組んできました。	センターと参加者情報の共有が課題となりました。
嗜好調査	開催終了時に各自の感想や意見を聞き取りしてきました。	最終講座にてアンケートを実施しました。	全体と個別の意見の調和を取りながら楽しんでいただけるプログラムの構成が課題となりました。
研修参加	研修参加なし		余暇支援に関する研修を検討していきます。

(2) 重点目標に対する取組み結果 (実績等)

目標設定を達成するための取組み

◇ 地域との取組み

- ・参加者様の就労状況を確認しながら、休日の休息の場となるよう、集団でのプログラムを中心に全員で取り組める活動を提供してきました。
- ・事業目的である「就労の継続を推進・維持できる活動の場」を提供する中で、開講期間内で一名、定年での退職という形での離職者がいらっしゃいました。
- ・就労先での悩みや個別の相談を受け入れやすい環境を作りながら、職場での悩みを受けた際には、総合支援センター担当者に情報を伝え、相互でのサポートを実施し、離職には至りませんでした。

3-3-18 ゆめの園 りふれ奈良

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
通所介護	8,537名	7,938名	107.5%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
内部研修	定期的に実施	継続	接遇、処遇、介護技術等の向上・スキルアップしサービスに繋げる
外部研修	定期的に参加	継続	一般職員の外部研修への参加
意向(嗜好)調査	1回実施	継続	満足度の調査を行いサービス内容の向上を行う

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

① 労務環境改善の為の取組み

- ・法人内の管理者研修にて労務管理について研修を受けた。
- ・有給休暇取得率、20%の目標に対し41%の達成。
- ・週一回以上のNO残業デイ実施は職種により偏りが出てしまいました。

② サービスの質の向上の為の取組み

- ・リスクマネジメント等の必要性を再度確認し合い、サービスの質の向上へ繋げた。
- ・医療行為等の知識の習得で、重度な利用者様への介護技術・処遇の向上が行えた。

3-3-19 宮原ゆめの園 居宅介護支援センター

(1) 目標に対する結果

① ケアプラン作成件数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
ケアプラン	1,603件	1,700件	94.3%
認定調査	464件	240件	193.3%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
地域交流	地域支援会議参加 北区地域研修参加・日進3丁目自治会行事参加	・地域の知名度の向上のため地域行事への参加 地域内の研修参加	地域会議・研修への参加は今後も継続。地域内での知名度の向上のため来期も行事への参加等地域とのかわりを強化していく。
研修参加	内部研修・19回参加	月1回の内部研修を目標とし事例検討や福祉機器などの説明会を中心に実施	制度についての研修が今期は少なかつたため来期は力を入れ取り組みを行う
研修参加	外部研修 28回参加	年12回の外部研修を目標に参加し実施を行ない伝達周知により共有を図る	継続し 積極的な外部研修参加。特に地域での研修は交流も兼ね参加を行う
医療連携	退院時カンファレンス参加 医師会との研修参加	営業活動を定期的に実施、退院時カンファレンスの参加	医療面との連携はまだ弱いため医療連携に積極的に参加をする

(2) 重点目標に対する取組み結果 (実績等)

① 労務環境改善の為の取組み

定期的に有給の取得も行ない残業時間を減らす取組みとし、週1回のノー残業日を各自設定(取得困難週は翌週2日)し実施した。仕事を均等に割り当ててのではなく、各自の現在の業務内容を確認し、声かけをしながら仕事の割り当てをすることで忙しさの偏りを減らすように取組みを行えた。

② サービスの質の向上の為の取組み

内部研修を月に1回目標に対し、平均月2回実施、福祉用具や相談業務に必要な知識の向上を図った。来期も継続し、内部研修を月1回を開催する。外部研修12回の目標に対し28回を参加し、1ヶ月以内に事業所内へ伝達を実施し、全員がサービスの質の向上を行なうことが出来るように努めた。今後も継続し研修への参加を行いサービスの向上に努めていく。

3-3-20 ゆめの園 いろは本郷放課後等デイサービス

(1) 目標に対する結果

①利用実績（のべ人数）※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
いろは本郷(定員10名)	1,906名	1,854名	102.8%

②サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
放課後等デイサービス事業	稼働率上昇 車両事故2件	レクリエーションの見直し 関係機関との協力	焦りや混乱状況を作らない運転業務

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績等）

目標設定を達成するための取り組み

◇ 労務環境改善のための取り組み

- ・ 法人主催の管理者研修へ参加
- ・ 有給取得率95%
- ・ 週1回NO残業デーを設定し、職員の健康管理・プライベートの充実を図っております

◇ サービスの質向上のための取り組み

- ・ 事業所内にて研修を行う
- ・ 社外研修にも参加
- ・ 車両事故2件
- ・ クリスマス会実施
- ・ ケース会議を実施、サービスや業務の充実化を図る
- ・ ご家族様のニーズを把握し、よりよい支援を心がけている

- 3-3-21 ゆめの園 春日町ヘルパーステーション (高齢)
 3-3-22 ゆめの園 春日町ヘルパーステーション (障害)
 3-3-23 練馬区いきがいデイサービス事業

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ時間) ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
ヘルパー事業	10,231時間	9,611時間	106.4%

② 利用実績 (のべ人数)

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
いきがいデイサービス	1400名	1,550名	90.3%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
内部職員研修	随時	問題点の研修	全員出席が困難
資格取得	資格取得無し	取り組み無し	勉強時間の確保
外部職員研修	3回	介護基本研修 (技術・医療)	計画書作成
ヘルパー研修	6回	技術研修・情報共有	参加者減少内容再考

(2)重点目標に対する取り組み結果 (実績等)

◇ *労務環境改善の為の取り組み

- ・管理者の労務管理研修参加
- ・有給休暇20%の取得率未達成
- ・事務員2人体制で業務事務の効率化を図る
- ・職員の週1回以上のNO残業デイ未達成

◇ *サービスの質の向上の為の取り組み

- ・隔月のヘルパー研修を開催し、情報の共有、問題点の研修、技術研修を行い、職員、登録ヘルパーのスキルアップを図った
- ・毎月の予定表・隔月のいきデイ新聞を発行することでご家族様や練馬区に活動の周知を通して連携を図った

◇ *地域との取り組み

- ・業務のため、町会等の行事に参加することができなかった
- ・地域にある社会福祉法人と連携協力するための年3回の連絡会に出席した。(練馬区社会福祉協議会主催)

3-3-24 春日町ゆめの園 居宅介護支援センター

(1) 目標に対する結果

① ケアプラン作成件数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
ケアプラン	1,204件	1,290件	93.3%
認定調査	253件	240件	105.4%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
地域研修・会議参加	各職員年6回以上	主に地域の研修会に参加	制度理解等に個人差有
事業所内ケアプラン検討会	およそ月1回	定期ミーティングにて	できない月もあった。
資格取得	無	新たな資格は特に無	更新研修に取り組んだ

(2)重点目標に対する取組み結果 (実績等)

◇ 労務環境改善の為の取組み

- ・管理者は職場環境をよりよくするために全体の士気を高め社員の能力を発揮出来る様に内部労務管理研修に参加し意識向上に努めた。
- ・有給休暇を積極的に取るようにし、心身の疲労回復に努め20%の目標を達成した。
- ・拠点に事業部事務員を配置し、事務業務の効率に繋がった。
- ・ノー残業デーを週1回設け、残業時間の削減に努めた。

◇ サービスの質の向上の為の取組み

- ・制度理解・スキルアップを目指し、地域のケアマネ研修会等に参加した。
- ・週1回、事業所内でのミーティングを開き、制度理解や社会資源等の情報共有を行ない、支援困難な事例については話し合いを行い打開策を検討した。

3-3-25 春日びより 放課後等デイサービス

(1) 目標に対する結果

①利用実績（のべ人数）※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
放課後等デイサービス	2,981名	2,000名	149.1%

②サービスの質の向上

区分	平成28年度通期目標
放課後等デイサービス事業	イベントを充実したプログラム作りを行った
	他事業所や行政と必要な情報交換やカンファレンスを行った。
	車両事故あり。

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績等）

目標設定を達成するための取り組み

◇ 労務環境改善のための取り組み

- ・管理者は意識向上のために労務管理研修を受け、適正な労務管理を行うことが出来た
- ・正職員の有給休暇年間取得率15%を目標としたが、目標まで届かなかった。
しかし全員が有休を取得することが出来た。
- ・事務員二人体勢で業務事務の効率化を図る
- ・職員の健康管理を考え、職員1名あたり時間外を月30時間以内を目指し、業務効率化を図ることが出来た。

◇ サービスの質向上のための取り組み

- ・介護技術向上を目指し社内研修の実施、社外（行政）研修の参加が出来た。
- ・運転時の無事故に関して達成できなかった。
- ・介護職員の意識向上のためにミーティング、研修を行うことが出来た。
- ・ボランティアの充実を図ることが出来なかった。
- ・相談支援との連携が十分に取れなかった。

3-3-26 春日町ゆめの園 障害者相談支援センター

(1) 目標に対する結果

①実績件数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
特定相談支援(新規計画)	91件	24件	379.2%
特定相談支援(モニタリング)	32件	24件	133.3%
障害児相談支援(新規計画)	28件	26件	107.7%
障害児相談支援(モニタリング)	13件	26件	50.0%
合計	164件	100件	164.0%

②サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
相談支援研修	6回	達成	知的障害の専門研修に参加は出来なかった

(2)重点目標に対する取り組み結果(実績等)

◇ 労務環境改善のための取り組み

- ・ 労務管理研修に参加を行い、意識向上に努めた。
- ・ 有休取得も積極的に行ない事業目標20%達成。ワーク・ライフ・バランスにも努めた。
- ・ 拠点に事業部事務員を配置し事務業務の効率に努めた。
- ・ 基本、土・日・祝をお休み日とし、特別な予定(業務時間外での訪問等)が無い日は定刻(17:30)で退社するように努めた。NO残業に努めた。

◇ サービスの質向上のための取り組み

- ・ 新規計画やモニタリング実施漏れが無いよう、ケースファイルの背表紙に次回のモニタリング実施年月や継続計画作成年月等を記入したシールを貼り、目で見ても漏れないように努めた。研修目標を2回と設定させていただいたが、専門的知識6回の研修参加が出来、各障害の専門的知識の習得に努めた。
- ・ 年6回の練馬東地域相談支援専門員会へ必ず参加し、練馬区の障害者福祉情勢の新しい情報を仕入れたり、各相談支援事業所と連携し、各事業所の質向上に努めた。

3-3-27 春日倶楽部（通所デイ）

3-3-28 春日倶楽部（日中一時支援事業）

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数） ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
通所介護	7,164名	7,453名	96.1%
日中一時支援事業	1,039名	969名	107.2%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
社内研修	上期7回・下期8回	月一回以上実施	職員参加率向上
社外（行政）研修	年間7回参加	練馬区の研修をメインに、随時参加	内部伝達までの時間短縮の取組み
意向調査	実施	次回、機能訓練の項目を増やし実施	調査項目の精査

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績等）

◇ 労務環境改善の為の取り組み

・管理者は労務管理に対するますますの意識向上のために労務管理研修を受ける。

→参加済み

・有給休暇取得率を20%を事業所目標・推進していく。

→取得率28%到達

・事務業務の効率を図るために事業部事務部門を構築する。

→達成

・職員の健康管理を考え、週1回以上、各自NO残業デイを作る。

→週1回実施

◇ サービスの質の向上の為の取り組み

・介護技術向上を目的とした社内研修の実施、社外(行政)研修の参加の促進。

→随時実施

・接遇、一般常識といった社内研修の実施、社外(行政)研修の参加の促進。

→随時実施

・新人職員をはじめ法人で、活躍できる人材の育成。

→随時実施

・運転時の無事故・無違反の徹底。

→自損事故1件「ワゴン車側面扉修理」

※余裕のある送迎ルートの確立・介助者の誘導の徹底にて対応継続中

・意向調査を実施し、利用者様のニーズをくみ取る。

→実施済み

・地域のケア会議等に参加し、情報交換・情報収集を行う。

→ミニ地域ケア会議・全体会議ともに参加済み

・部署別会議、レク、ケア会議などで利用者様やレクリエーション・日常業務等

について発言しやすい環境を作り意見交換、必要時見直しサービスの向上を図る。

→継続的に実施中

・新しいレクリエーションを社内外から導入し、利用者様の満足度を上げる。

→1件導入済み ※機能訓練を全日開始したため、力を入れ始めています。

3-3-29 前野町ゆめの園 ヘルパーステーション(高齢)
 3-3-30 前野町ゆめの園 ヘルパーステーション(障害)

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ時間 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付)

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
ヘルパー事業	9,105時間	11,955時間	76.2%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
外部職員研修	年間6回参加	スキルアップ研修の参加	医療連携についての研修が少なかった
ヘルパーミーティング	月1回開催	消費者トラブル、認知症研修等を行った	個別ミーティングの増回
介護技術研修	年2回	他部署と合同で行った	開催数が少なかった

(2)重点目標に対する取組み結果 (実績等)

◇ 労務環境改善の為の取組み

- ・管理者は労務管理研修を受け適正な労務管理ができた。
- ・正職員の有休休暇年間取得率20%達成できた。
- ・事務員を確保し事務作業の効率を図れた。
- ・職員の健康管理を考え、週1回以上の各自NO残業デイを確保した。

◇ サービスの質の向上の為の取組み

- ・外部研修に参加しその内容を職員に周知できた。
- ・ヘルパーミーティングを開催し情報共有や支援内容の検討などが行えた。
- ・介護技術研修を行い技術の見直しや登録ヘルパーのレベルアップができた。

3-3-31 志村ゆめの園 居宅介護支援センター

(1) 目標に対する結果

① ケアプラン作成件数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
ケアプラン	2,101件	1,931件	108.8%
認定調査	136件	180件	75.6%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
地域研修	各ケアマネ3回以上	概ね達成	地域研修共に分散して参加出来るように心がけた。
事業所内ケアプラン検討会	月1回 週1回内部ミーティング	週1回ケース検討しサービス内容を確認した。	プラン内容についてのミーティングや月一回の居宅会議で情報共有し一人で悩まないように情報共有した。

(2)重点目標に対する取組み結果(実績等)

◇ 労務環境改善の為の取組み

- ・管理者は内部労務研修に参加を行い意識向上に努めた。
- ・有給休暇取得率20%達成。
- ・事務業務の効率化を図る為、わかばゆめの園事務職員との連携を行い本部への事務書類の引き取り、新規書類の定期便と連携し事務作業の効率化が図れた。
- ・職員の健康管理を考え週1回のノー残業デイを設け残業時間の削減に取り組んだ。

◇ サービスの質の向上の為の取組み

- ・特定事業所としての質の高い介護支援サービスを提供できるように居宅ミーティングを毎週開催し、利用者の情報共有や困難ケースの解決に向けて知恵を出し合い、担当しているケアマネが一人で抱かえない様、相談し合える雰囲気作りに取り込んだ。また、法令遵守し基準に則した運営に努めた。
- ・対人援助技術を向上させるため、年3回以上の外部研修参加に取り組む専門知識の習得を行い、スキルアップに取り組む情報共有に努めた。
- ・研修計画を立て、個人目標を設定し内部・外部研修に参加し専門知識の習得に取り組んだ。
- ・月1回の定期的な会議を行い中立公正な居宅計画を作成できているのか、会議にて内容を確認し地域情報・困難事例を通し、事業所全体での情報共有し問題解決が出来るように努めた。

◇ その他

- ・軽費削減対策を常に考え、裏紙を使用したり、細めに電気を消すように心がけた。
- ・わかばゆめの園が開設し情報共有し、近隣の地域包括支援センター・民生委員等に内覧会等を企画し、わかばゆめの園の情報を地域へ発信し入居者・デイサービス・ショートステイの新規利用者が獲得出来るように努め法人に貢献できるよう情報共有した。
- ・個人情報の使用は目的内の範囲の最小限にとどめ、情報提供の際には関係者以外に漏れることのないように細心の注意を行った。

3-3-32 志村ゆめの園 障害者相談支援センター

(1) 目標に対する結果

① 実績件数

※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
特定相談支援(新規計画)	4件	2件	200%
特定相談支援(モニタリング)	96件	74件	130%
障害児相談支援(新規計画)	18件	8件	225%
障害児相談支援(モニタリング)	131件	80件	164%
合計	249件	164件	152%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
相談支援研修	目標4回の研修目標に対して6回研修参加	おおむね達成	重心の方や医療ケアのある方への支援の在り方について知識を広めていきたいです。

(2) 重点目標に対する取り組み結果(実績等)

◇ 労務環境改善の為の取り組み

- ・法人内の労務管理研修(6/15)、管理職研修(9/21)にて、労務についての考え方や管理職としての役割等について学び、意識して日々の業務に努めました。
- ・有給休暇の取得については、前野町新規事業や10月以降のあおばの開催の準備もあり取得することができませんでした。
- ・若葉ゆめの園の事務部門ができ、書類の確認ややり取りがスムーズになりました。
- ・NO残業デイについては、週1回必ず実施することはできできませんでした、出来る限り帰れる日は早めに帰るよう努めました。

◇ サービスの質の向上の為の取り組み

- ・28年度は、高次脳機能障害や盲ろう者への支援についての研修に参加し、担当するご利用者への支援に生かしました。
- ・毎月の相談支援事業所実務担当者会議の他、板橋区地域自立支援協議会相談支援部会等に積極的に参加し、行政、学校、各サービス事業所、関係団体等とのネットワークが広がりました。

3-3-33 板橋ゆめの園 はすねっこ

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
はすねっこ（定員15名）	5,311名	5,100名	104.1%
けやき分園（定員20名）	6,510名	6,300名	103.3%
合計	11,821名	11,400名	103.7%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
放課後等デイサービス事業	①自立支援プログラムの強化 ②スポーツ活動の充実 ③安全運転、無事故、無違反	①②達成 ③取組み継続中	送迎車の自損事故があった

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

◇ 労務環境改善の為の取組み

- ・管理者は本部主催の労務管理研修に参加した。
- ・有給休暇所得率は8%。達成できなかった。平成29年度達成を目指す。
- ・事業部事務部門に一部事務を委譲し、事務業務の効率化を図れた。
- ・定時退社を奨励した。

◇ サービスの質の向上の為の取組み

- ・社内、社外研修に積極的に参加した。
- ・無事故に向けた「ドライバーズ会議」を1回/月、行うこととした。
- ・送迎車運転時の交通規則違反はなかった。
- ・ボランティア担当職員を決め、年間を通じ多数のボランティアの参加を得た。
- ・区内放課後デイ事業者連絡会の立ち上げ委員となり、情報交換、収集の場を作った。
- ・職員ミーティングで業務の効率化、支援の質の向上についてパート職員を含め検討した。
- ・利用者の身体的特性に合わせた机やイス等の備品を購入した。

3-3-24 板橋ゆめの園あおば（日中一時支援事業）

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数）

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
日中一時支援事業(上期)	998名	700名	142.6%
日中一時支援事業(下期)	117名	386名	30.3%
合計	1,115名	1,086名	102.7%

② サービスの質の向上

区分	運営実績・取組み状況・課題等
日中一時支援事業	<p>新設事業所、また上期に関しては、若葉ゆめの園生活介護へ移行する前提の繋ぎ事業という位置づけの運営であった。採用間もない発展途上の職員も多い状況で、嚙下障害を持つ肢体不自由利用者の食事介助については、特に注意深い取組みを要した。調理レク中に誤嚥リスク～排痰実施のインシデント報告もあり、他部署の専門職（PT、看護師、管理栄養士、等）に直接ケース確認とご指導を頂くような取組みを実施した。</p> <p>平成29年2月より新たな職員体制で週3日プレオープン、4月からは週6日開催。平日は夕方、土・祝日は1日の余暇・レスパイト支援を実施。生活介護や就労継続支援での活動とは差別化し、まずは楽しく過ごせることを主にしながら、レクや創作活動、学習活動を実施。今後についてはご利用者がもっと楽しく過ごせるよう、またできることの幅が広げられることを目標に活動内容の充実を図っていきたい。平成29年度においては、成人の余暇活動支援事業として運営を行っていくことになるが、平成28年度の多くの利用者がそのまま、若葉ゆめの園と併用してご利用いただいているので、部署間の密接な情報共有と、他職種連携、また支援スタッフのスキル向上の為の取組みが課題に挙げられる。</p>

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

◇労務環境改善のための取組み

- ・ 管理者の労務管理に対する労務管理研修については外部研修には参加できなかった為来年度は内部研修だけでなく外部研修にも参加し、意識向上を目指していきたい。
- ・ 有給休暇取得率は平均20%取得を達成することができた。
- ・ 若葉ゆめの園の事務部門ができ、書類の確認ややり取りがスムーズになった。
- ・ 週1回以上のNO残業デーについては、残務が発生した場合等も別日に振り替える等して、ほぼ実現できたが、若葉ゆめの園の新規立ち上げ、移行を直前に控えた、8月後半～9月においては、各職員、瞬間的にNO残業を実現できない時期があった。

◇サービスの質向上のための取組み

- ・ 実務経験5年以上の職員が児童発達支援管理責任者・サービス管理責任者研修（生活）を受講することができた。
- ・ 新卒支援員2名が、法人主催の行動援護従業者養成研修を受講することができた。
- ・ 社外研修への参加については、取組が進まなかったので、来期への課題としたい。
- ・ 月に2回程度の頻度で、介護技術向上を目的としたケース会議や内部研修を開催できた。
- ・ 運転業務の無事故・無違反について、注意喚起を行うも、自転車を運転する小学生との接触人身事故があった。来期は再発防止の徹底に努める。
- ・ 板橋区ボランティアセンターとの密接な連携
 広報紙や掲示を通じた周知募集をお願いし、以下のボランティア誘致に繋がった。
- ・ 支援ボランティアスタッフ 延べ16名
- ・ 演芸ボランティアスタッフ 延べ11名（延べ3組）

3-3-35 asumoねりまデイサービスセンター

(1) 目標に対する結果

① 利用実績（のべ人数 ※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
通所介護	10,538名	10,000名	105.4%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	課題・反省等
社内研修	定期的実施	参加できていない職員もいた。日程の調整や声掛けを行い、できるだけ全職員が参加できるようにする。
社外（行政）研修	随時実施	積極的に職員が参加したい研修に参加できるような体制作りを行う。学んだことを他の職員にも伝える為、内部研修の機会を設ける。

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績等）

① 労務環境改善の為の取り組み

- ・管理者は労務管理に対するますますの意識向上のために労務管理研修を受ける。
管理者は、労務管理研修を受け、現場に反映できた。
- ・有給休暇取得率を20%を事業所目標・推進していく。
有給休暇取得率の事業所目標20%に対し職員不足により13%であった。
目標数値を達成出来る様に人員を増やし計画的に有休取得に努める。
- ・事務業務の効率を図るために事業部事務部門を構築する。
他事業所の事務部門と連携し、事務業務の効率化を図ることができた。
- ・職員の健康管理を考え、週1回以上、各自NO残業デイを作る。
月曜日をNO残業デイとして設定し、職員の健康管理に努めた。

② サービスの質の向上の為の取り組み

- ・年に二回の意向調査を行う予定であったが、
意向調査の代わりに、嗜好調査を実施。調査後、リクエスト献立を行い
利用者様の満足度を上げることが出来た。
- ・プログラムの充実を図る為にも練馬区ボランティア担当研修に参加し、
フラワーアレンジメント教室や音楽ボランティア様と繋がりを持つことが出来た。
その為、新たな新規ボランティア獲得に繋がられた。
- ・職員スキル向上を図り、積極的に内部・外部研修を取り入れる。
外部研修に参加し、研修内容を内部研修で反映したことにより、職員スキル向上を
図ることが出来た。（誤嚥防止研修、車いす操作、感染症予防等）
- ・心身機能向上に向けた新たな機能訓練プログラムの構築を図る。
新たな機能訓練プログラムは構築出来ていないが、機能訓練指導員の変更により、
従来の機能訓練プログラムの見直しを行い、更なる機能訓練プログラムの充実化を
図ることができた。
- ・地域で求められているニーズを知る為にマーケティングリサーチを行い、
周辺動向を把握する必要性があった。更なるサービス向上を図る為に、
実態の把握を努めていく。

3-3-36 特別養護老人ホーム若葉ゆめの園

3-3-37 特別養護老人ホーム若葉ゆめの園 ショートステイ事業

(1) 目標に対する結果

①利用実績（のべ人数）※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
特養	17,553名	15,916名	110.3%
ショートステイ	916名	540名	169.6%
合計	18,469名	16,456名	112.2%

②サービスの質の向上（今年度の取り組み）

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
その人らしさを追求し 余生を過ごせる環境	24時間シートをご入居 の際聞き取りし運用する ことができた。	ご入居の際に24時間 シートの聞き取りを行 い、その方に合わせた介 護を行う。食器類等ご入 居者様の慣れ親しんだも のをお持ち込み頂く。	今後モニタリングを行 いながら、個別サービスの 充実を図る。
行事計画	クラブ活動を取り組むこ とができなかった。季節 行事やおやつレクなどは 行うことがユニットごと にできた。	季節に合わせた創作品作 りや散歩、花見、おやつ レクを行う。	クラブ活動を取り組むこ とが出来なかったため、 29年度進めていきたい
心身のケア	ユニットケアの為職員が 近い環境にあり、個々で 精神面のケアをすること ができた。	各ユニットの職員や、看 護師、相談員等様々な職 員が聞き手となること ができた。	今後も個別ケアを行って いく。
面会	非常に多くのご家族様に 面会に来園して頂くこと ができた。また、外泊も ご家族様ご協力のもと行 うことができた。	面会時間を9時から18時 30分とし、土日につ けて多くのご面会の方に 来園していただけた。	インフルエンザにて面会 制限をさせていただいた 時期があった。今後感染 症等も注意していきたい。
地域連携	体操などのボランティア の受入を行い、入居者様 と交流を持っていただく ことができた。	ボランティアの受け入れ	今後関わりを多く持って いただけるよう、ボラン ティア等の受入を進めて いく。また地域との連携 を深める企画を実施した い。

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績等）

安定的に運営

10月のオープンにあたり、8月から入浴介助研修や服薬介助研修、チームワーク・リスクマネジ
研修など様々な研修を行ってまいりました。オープン直前にはユニットケアテストランを
ご入居の シミュレーションを行い混乱なくスムーズに対応ができるよう取り組みました。

3-3-38 若葉ゆめの園 デイサービスセンター
 3-3-39 若葉ゆめの園 認知症デイサービスセンター

(1) 目標に対する結果

①利用実績（のべ人数）※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
通所介護	3,045名	2,436名	125.0%
認知対応型通所介護	65名	119名	54.6%
合計	3,110名	2,555名	121.7%

②サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
社内研修	毎月技術研修を実施	継続	教育できる職員を増やす
社外（行政）研修	3回実施	継続	一般職員の受講増
意向調査	1回実施	継続	食事調査を実施する

(2) 重点目標に対する取り組み結果（実績）

◇ 労務環境改善のための取り組み

- ・管理者は労務管理に対するますますの意識向上のために労務管理研修を受けました。
- ・有給休暇取得率を20%を事業所目標・推進しました。
- ・事務業務の効率を図るために事業部事務部門を構築しました。
- ・職員の健康管理を考え、週1回以上、各自NO残業デイを実施しました。

◇ サービスの質向上の為の取り組み

- ・介護、接遇技術向上のため内部研修を定期的に行いました。
- ・運転時の無事故・無違反の徹底のため、送迎マップを基に送迎研修を実施しました。
- ・家族、利用者双方のニーズに応えられるよう、職員一同で情報を共有し、検討しました。
- ・職員間の情報共有のため、職員全体ミーティングを毎月実施しました。

3-3-40 若葉ゆめの園 多機能型事業所

(1) 目標に対する結果

① 利用実績 (のべ人数)

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
生活介護事業	1,174名	1,548名	75.8%
放課後等デイサービス	538名	902名	59.6%
合計	1,712名	2,450名	69.9%

② サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
関連機関との連携強化	生活介護実習受入 【高3生】12名 →うち8名が本利用へ 【高2生】3名	各特別支援学校の先生とは密な連携と情報交換を通じて、放課後等デイのサービス向上、生活介護への移行・新規利用を促進する取組みができた。	既存ケース個別支援計画の充実と新規利用者の獲得の為に、各福祉事務所のケースワーカー及び外部相談支援専門員との連携は更に強化する。
安全運転 無事故・無違反	(運転)事故報告書 →2件 (支援)インシデント報告 →3件	車両事故については、いづれも不注意による単独物損事故発生。また利用者の発作対応や敷地内通行に関するリスクレポートが報告された。	無事故無違反の徹底に至らず。運転技術の向上の為に管理課と連携、運転講習受講を進めると共に、敷地内外の通行・駐車ルールを再確認する。

(2) 重点目標に対する取組み結果 (実績等)

◇労務環境改善のための取組み

- ・ 管理者の労務管理に対する労務管理研修については外部研修には参加できなかった為来年度は内部研修だけでなく外部研修にも参加し、意識向上を目指していきたい。
- ・ 有給休暇取得率は平均20%取得を達成することができた。
- ・ 週一回以上のNO残業デーについては、新規開設初年度ということもあり、特に第3四半期においては、励行に至らないスタッフも散見されたが、第4四半期については、別日に振り返る等して、ほぼ実現することができた。

◇サービスの質向上のための取組み

- ・ 実務経験5年以上の職員が児童発達支援管理責任者・サービス管理責任者研修(生活)を受講することができた。
- ・ 新卒支援員2名が、法人主催の行動援護従業者養成研修を受講することができた。
- ・ 社外研修への参加については、取組が進まなかったため、来期への課題としたい。
- ・ 月に2回程度の頻度で、ケース会議や内部研修を開催することができた。

◇地域との取組み

- ・ 板橋区ボランティアセンターとの密接な連携
 - ・ 広報紙や掲示を通じた周知募集をお願いし、以下のボランティア誘致に繋がった。
 - ・ 支援ボランティアスタッフ 延べ6名
 - ・ 演芸ボランティアスタッフ 延べ10名(延べ2組)
- ・ 防災意識を持ち、マニュアル等の整備、避難訓練も実施することができた。
- ・ 屋上菜園や活用した園芸作業、おさんぽコースを活用した屋外活動を高い頻度で実施出来た。来期はさらにその管理保全や地域連携を意識した活動にしたい。

3-3-41 若葉ゆめの園 事業所内保育所

(1) 目標に対する結果

①利用実績（のべ人数）※月別利用状況及び要介護度分布、その他活動実績等は別紙にて添付

区分	H28年度実績(報告)	H28年度目標(計画)	H28年度達成率
事業所内保育	375名	264名	142.0%

②サービスの質の向上

区分	運営実績	取組み状況	課題・反省
事業所内保育	実施	事業の運営方法の確立と職員教育	H29年度も引き続き行う

(2) 重点目標に対する取組み結果（実績等）

◇ サービスの質向上の為の取組み

- ・園児が安全に過ごせるように、危険と判断をした箇所の改善を行っていった。
- ・日々の保育の中でおきた怪我等をインシデント、ヒヤリハットを基に全職員に周知し同じ繰り返しのないように努めた。
- ・降園時子どもの様子を伝えたり、個人面談を通して悩みを聞きながら園での様子を伝える事により連携を図っていった。

◇ 地域との取組み

- ・1.2歳児の枠を設けた事により、地域の子どもを受け入れることができた。
- ・赤ちゃんの駅や園庭開放をしていく中で、園庭では地域の子どもが遊ぶ姿が見られた。
- ・散歩時地域の方との交流や公園内では関わって遊んだりもした。又園児募集のチラシも用意してあり小さいお子さんという親御さんに手渡していく事をした。